

On the Way Home

统一书号：M·10097

定 价：

ମୁଖ୍ୟମନ୍ତ୍ରୀ ପାତ୍ରଙ୍କିଣୀ

ଶ୍ରୀମଦ୍ଭଗବତପ୍ରକଳ୍ପନା

ଶ୍ରୀମଦ୍ଭଗବତପ୍ରକଳ୍ପନା

1985. 4. 23.

କାନ୍ତିର ପାଦମଣି ପାଦମଣି ।

କାନ୍ତିର ପାଦମଣି ପାଦମଣି , ଏହି ପାଦମଣି
କାନ୍ତିର ପାଦମଣି , ଏହି ପାଦମଣି ।

କାନ୍ତିର ପାଦମଣି , ଏହି ପାଦମଣି
କାନ୍ତିର ପାଦମଣି , ଏହି ପାଦମଣି ।

କାନ୍ତିର ପାଦମଣି ପାଦମଣି , ଏହି ପାଦମଣି
କାନ୍ତିର ପାଦମଣି ।

କାନ୍ତିର ପାଦମଣି , ଏହି ପାଦମଣି
କାନ୍ତିର ପାଦମଣି , ଏହି ପାଦମଣି ।

骆宾王

从军行

杨炯

送杜少府之任蜀州

王勃

唐诗目录

(2)

(5)

渡漢江

王維

雜詩

沈佺期

題大庾嶺北驛

宋之問

和晉陵陸丞早春游望

15

遠近

杜審言

感遇

登幽州台歌

燕昭王

陳子昂

在獄咏蟬

王昌齡

(8)

(11)

(12)

(13)

(18)

(21)

(23)

夜归鹿门山歌
孟浩然

夏日南亭怀辛大

宋玉游赤壁

春晓

望洞庭湖呈张丞相

孟浩然

与颜钱塘登樟望潮作

李白

过故人庄

孟浩然

感遇

张九龄

望月怀远

张若虚

(25)

(32)

(34)

(38)

39

(41)

(43)

(44)

(46)

卷之三

黃鶴樓

崔顥

蒙古文

原序

王翰

古从军行

李欣

桃花溪

卷之三

张旭

卷之三

回乡偶书

永卯

賀知章

涼州詞

登鸕雀樓

王之渙

(48) (49)

(51) (52)

(54) (55)

(58)

60

新晴野望

气蒸云梦泽，波撼岳阳城。

山居秋暝

空山新雨后，天气晚来秋。

渭川田家

少小离家老大回，

阳关曲

君自故乡来，应知故乡事。来日绮窗前，寒梅著花未？

九月九日忆山东兄弟

王维

独在异乡为异客，

(67)

钓鱼湾

储光羲

孟浩然

塞下曲

军书十二卷，

采莲曲

小娃撑小艇，偷采白莲回。

西宫春怨

闺怨

王昌龄

(62) (63) (64) (65)

(66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74)

卷之三

乌栖曲

金陵新亭

夜下正嘉亭

卷之三

黄鹤楼送孟浩然之广陵

望天門山

三二一

蜀道难

卷之三

靜夜思

峨嵋山月歌

李白

尋西山隱者不遇

卷之三

文
集

送別

独坐敬亭山

孤云一去復何歸
孤雲一去復何歸

望庐山瀑布

日照香炉生紫烟
日照香炉生紫烟

赠汪伦

李白乘舟将欲行
李白乘舟将欲行

秋浦歌

白帝城高急暮砧
白帝城高急暮砧

下终南山过斛斯山人宿置酒

金樽清酒斗十千
金樽清酒斗十千

夜泊牛渚怀古

牛渚西江月夜泊
牛渚西江月夜泊

送友人

挥手自兹去
挥手自兹去

渡荆门送别

仍怜故乡水
仍怜故乡水

春思

谁家玉笛暗飞声
谁家玉笛暗飞声

朝辞白帝城

两岸猿声啼不住
两岸猿声啼不住

金多送韦八之西京

双袖卑卑泪湿衣
双袖卑卑泪湿衣

关山月

明月松间照
明月松间照

子夜吴歌

(97) (98) (100) (102) (103) (104) (106) (107) (109) (111) (116) (117)

前出塞

羌和ノハシ和ノ
望岳

(133)

杜甫

春夜喜雨

春梦

走马川行奉送封大夫出师西征

凉州馆中与诸判官夜集

不眠思北客
早发白帝城

逢入京使

(124)

(125)

(128)

(131)

岑参

黑发不知勤学早
白首方悔读书迟

题破山寺后禅院

(129)

常建

家在水南村
每依桑竹宿

除夜作

遥知兄弟登高处
遍插茱萸少一人

别董大

高适

(118)

(120) (121)

卢倫

卷之三

滁州西涧

卷之三

卷之三

題三閭大夫廟

卷之四

卷之三

枫桥夜泊

张继

穆陵关北逢人归過關

卷之三

登岳阳楼

春夜喜雨

石豪吏

三

卷之三

卷之三

(136) (137) (140) (144) (145) (147) (148)

(150)

(152)

(153)

江雪

孤舟蓑笠翁
柳宗元

千山鸟飞绝
万径人踪灭

孤舟蓑笠翁

独钓寒江雪

南园

李贺

大漠沙如雪

春思

洛阳城里见秋风
欲作家书意万重

复恐匆匆说不尽
行人临发又开封

送李侍郎赴常州

贾至

巴陵山西藏海云

征妇怨

孟郊

秋风引

听角思归

顾况

塞下曲

(155)

(156)

(158)

18

(160) (161)

(163) (164)

19

よしのまわしうめじ

竹枝詞

あさる

刘禹錫

うれしの花もよしかわのうづくらふ
没蕃故人

ゆめゆめ

秋思

张籍

えよがはりよひよむよ

喜見外弟又言別

よむよむよむよむよむ

从军北征

江南曲

よむよみよみよみよみよみよみよみ

夜上受降城闻笛

李益

采薇

漁翁

よむよみよみよみよみよみよみよみ

与浩初上人同看山寄京华亲故

よむよみよみよみよみよみよみよみ

(169)

(170) (171)

(173) (174)

(175) (176)

178 (179)

(182)

山行

杜牧

寄刘梦得

李商隐

暮江吟

草

白居易

古风二首

李绅

题李凝幽居

寻隐者不遇

剑客

贾岛

浪淘沙

(183)

(184) (185) (186)

(188)

(191) (193) (194)

(195)

(196) (197) (198)

24

(199) (200)

(202)

25

清明

多
少
不
知
是
何
事
但
觉
春
深
已
是
晚
秋
江
南
春
绝
句

寄
杨
州
韩
绰
判
官

李商隐

有感

乐游原

李商隐

崔
护

题都城南庄

去年今日此門
人去花落知多少
人面不知何處
尋到處已無處

王勃の文章は、その文風から「王氏の筆」といわれるほど、當時の文壇で高く評価された。しかし、彼の死後、その文章は徐々に失われ、ほとんど記録されなくなってしまった。しかし、近頃では、その文章が復活する動きが見えており、また、その文章が今後も注目されることが予想される。

海内存知己，
天涯若比邻。
无为在歧路，
儿女共沾巾。

君のまじ不都心事も遠しとおし
同是官游人
あらうともあれもあはしめもまくおまく
与君离别意
ふもつゆのまきりよのあまくともくおも
风烟望五津
かみやしのくわくおもえみくてももく
城阙辅三秦

送杜少府之任蜀州

ପ୍ରମାଣ କରିବାରେ ଯାହାକୁ ଦେଖିବାକୁ ପାଇଁ ଏହାକିମ୍ବାନ୍ତିରେ ପାଇଁ

铁骑绕龙城。

胡马度阴山。

牙璋辞凤阙。

誓将直捣黄龙府。

心中自不平。

烽火照西京。

从军行

从军行

烽火照西京。
胡马度阴山。
牙璋辞凤阙。
誓将直捣黄龙府。
心中自不平。
烽火照西京。

不思議な事。

もしもアレシ。アレハシシヨリ、おもて、おもて、まよわし。
おもて、おもての、おもて、おもて、おもて、おもて、よる。
おもて、おもて。おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、
おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、
おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、
おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、
おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、
おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、
おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、
おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、
おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、
駱賓王。640 — 684 1月)、ふ

勝作一书生。
宁为百夫长，
风多杂鼓声。
雪暗凋旗画，

陳子昂也。多以詩賦著。其詩雄深雅健。高麗人慕之。有不以金幣易者。或問其故。曰。非徒文筆也。蓋不以文章自居。不以才名自矜。故人莫之知也。

谁为表余心。
无人信高洁。

风多响易沉。
露重飞难进。

“尔已知吾诗，
来对白头吟。
尔今不我顾，
那堪玄鬓影。
南冠客思深。
西陆蝉声唱。”

在狱咏蝉



しよりもよきもの！

昭王安在哉！

むちむじまうむむむ生す、

丘陵尽喬木・

不毛も色えむが御木也ゆる：

遙望黄金台：

金臺も子もむすめにしむれ、

南登碣石館、

生す

燕昭王

黒雲。未だよきも已。

不毛。見す。未だよきも已。のむかひ。未だよきも

す。未だよきも已。未だよきも已。未だよきも已。

未だよきも已。未だよきも已。未だよきも已。未だよきも已。

未だよきも已。未だよきも已。未だよきも已。未だよきも已。

(684) 未だよきも已。未だよきも已。未だよきも已。

亭堠何摧兀，
荒途無徑草木齊。
今古猶荒途。
蒼蒼丁零塞，

感遇

人生亦有命，
安能行叹複長吁。
獨憇然而涕下，
安能蹀躞東南隅。

念天地之悠悠，
生不見來者；
死亦不復還，
前不見古人，

登幽州台歌

前無古人，後無來者。
念天地之悠悠，獨悲愴而涕下。
驅馬復歸來，
霸圖今已矣，

走りよ少しきるは
和晋陵陆丞早春游望

よしよしよしよし
よしよしよしよし

杜审言 よしよし (646? - 708?) よののを、
よしよしよしよし

よしよしよしよし

谁怜塞上孤

自是秦兵也已非也，
但见沙场死，
不复归来也。 ·
曾以事匈奴。
不复有家也已非也，
汉甲三十万，
今不复归也。 ·
白日隐西隅。 ·
黄沙漠南起，
暴骨无全躯。 ·

10

3

1

归思欲沾巾

忽聞歌古調

晴光轉綠蘋。

淑氣催黃鳥

梅柳渡江春

云霞山海曙

偏惊物候新

独有宦游人，

应见陇头梅。

明朝望乡处，
林昏瘴不开。

江静潮初落，
月落乌未央。

何日复归来？

我行殊未已，
不似江南度。

传闻至此回。

阳月南飞雁，

足音杳杳夜未央。

题大庾岭北驿

寒风一夕起，
白露成秋霜。
旅宿山中夜，
愁心与明月。
思君如满月，
夜夜减清辉。
但使思情在，
岁岁有此期。

长在汉家营。
可怜闺里月，
频年不解兵。
闻道黄龙成。

思乡曲

杂诗

君自故乡来。应知故乡事。
来日绮窗前。寒梅著花未。
(705—707) 朝代：唐 作者：王维
译文：您是刚从我们家乡来的，一定了解家乡的事。请问您来的时候，我家的窗前的寒梅开花了没有？

王维生平：王维，字摩诘，河东人。工书画，善诗文。与孟浩然齐名，世称“王孟”。

七

八

九

十

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

二十七

二十八

二十九

三十

三十一

三十二

三十三

三十四

三十五

三十六

三十七

三十八

三十九

四十

四十一

四十二

四十三

四十四

四十五

四十六

四十七

四十八

四十九

五十

五十一

五十二

五十三

五十四

五十五

五十六

五十七

五十八

五十九

六十

六十一

六十二

六十三

六十四

六十五

六十六

六十七

六十八

六十九

七十

七十一

七十二

七十三

七十四

七十五

七十六

七十七

七十八

七十九

八十

八十一

八十二

八十三

八十四

八十五

八十六

八十七

八十八

八十九

九十

九十一

九十二

九十三

九十四

九十五

九十六

九十七

九十八

九十九

一百

一百一

一百二

一百三

一百四

一百五

一百六

一百七

一百八

一百九

一百十

一百十一

一百十二

一百十三

一百十四

一百十五

一百十六

一百十七

一百十八

一百十九

一百二十

一百二十一

一百二十二

一百二十三

一百二十四

一百二十五

一百二十六

一百二十七

一百二十八

一百二十九

一百三十

一百三十一

一百三十二

一百三十三

一百三十四

一百三十五

一百三十六

一百三十七

一百三十八

一百三十九

一百四十

一百四十一

一百四十二

一百四十三

一百四十四

一百四十五

一百四十六

一百四十七

一百四十八

一百四十九

一百五十

一百五十一

一百五十二

一百五十三

一百五十四

一百五十五

一百五十六

一百五十七

一百五十八

一百五十九

一百六十

一百六十一

一百六十二

一百六十三

一百六十四

一百六十五

一百六十六

一百六十七

一百六十八

一百六十九

一百七十

一百七十一

一百七十二

一百七十三

一百七十四

一百七十五

一百七十六

一百七十七

一百七十八

一百七十九

一百八十

一百八十一

一百八十二

一百八十三

一百八十四

一百八十五

一百八十六

一百八十七

一百八十八

一百八十九

一百九十

一百二十

一百二十一

一百二十二

一百二十三

一百二十四

一百二十五

一百二十六

一百二十七

一百二十八

一百二十九

一百三十

一百三十一

一百三十二

一百三十三

一百三十四

一百三十五

一百三十六

一百三十七

一百三十八

一百三十九

一百四十

一百四十一

一百四十二

一百四十三

一百四十四

一百四十五

一百四十六

一百四十七

一百四十八

一百四十九

一百五十

一百五十一

一百五十二

一百五十三

一百五十四

一百五十五

一百五十六

一百五十七

一百五十八

一百五十九

一百六十

一百六十一

一百六十二

一百六十三

一百六十四

一百六十五

一百六十六

一百六十七

一百六十八

一百六十九

一百七十

一百七十一

一百七十二

一百七十三

一百二十四

一百二十五

一百二十六

一百二十七

一百二十八

一百二十九

一百三十

一百三十一

一百三十二

一百三十三

一百三十四

一百三十五

一百三十六

一百三十七

一百三十八

一百三十九

一百四十

一百四十一

一百四十二

一百四十三

一百四十四

一百四十五

一百四十六

一百四十七

一百四十八

一百四十九

一百五十

一百五十一

一百五十二

一百五十三

一百五十四

一百五十五

一百五十六

一百五十七

一百五十八

一百五十九

一百六十

一百六十一

一百六十二

一百六十三

一百六十四

一百六十五

一百六十六

一百六十七

おもひえじりじふれむじじふ。
不敢问来人。

おもひえじるをじまのまつもあひ、
近乡情更怯。

よもじよもくみまつめのまつめ、
经冬复历春。

よもじよもくみまつめのまつめ、
岭外音书断。

東都賦

渡汉江

あくまくおきなまくまくおきなまく。
一为取龙城。
もしやまくまくおきなまく、
谁能将旗鼓，
あくまくおきなまくまくおきなまく。
良人昨夜情。
おもひがくまくまくおきなまく、
少妇今春意，

秦时明月汉时关，万里长征人未还。

但使主人能醉客，不知南北是何方。

25

春江花月夜

张若虚

春江潮水连海平，

海上明月共潮生。

滟滟随波千万里，

皎皎空中孤月明。

江畔何人初见月？

江月何年初照人？

人生代代无穷已，

江月年年只相似。

不知江月待何人，

但见长江送流水。

白云一片去悠悠，

青枫浦上不胜愁。

谁家今夜扁舟子？

何处相思明月楼？

可怜楼上月徘徊，

不知乘月几人归。

江水流春去欲尽，

江潭落月复西斜。

斜月沉沉藏海雾，

碣石潇湘无限路。

不知乘月几人归，

落月摇情满江树。

春江花月夜

春江潮水连海平，
海上明月共潮生。
滟滟随波千万里，
皎皎空中孤月明。
江畔何人初见月？
江月何年初照人？
人生代代无穷已，
江月年年只相似。
不知江月待何人，
但见长江送流水。
白云一片去悠悠，
青枫浦上不胜愁。
谁家今夜扁舟子？
何处相思明月楼？
可怜楼上月徘徊，
不知乘月几人归。
江水流春去欲尽，
江潭落月复西斜。
斜月沉沉藏海雾，
碣石潇湘无限路。
不知乘月几人归，
落月摇情满江树。

24

月色茫茫多变多变也未可知也，
白云一片去悠悠，

但见长江送流水。

不知江月照何人，
但见长流送流水。

江月年年只相似，

人生代代无穷已，

江月何年初照人？

人生代代无穷已，
江月何年初照人？

江畔何人初见月？

皎皎空中孤月轮。

江天一色无纤尘，

江畔何人初见月？

皎皎空中孤月轮。

江天一色无纤尘，

江畔何人初见月？

皎皎空中孤月轮。

江天一色无纤尘，

江畔何人初见月？

皎皎空中孤月轮。

可怜春半不还家。
手すりよじりじまし、よじるよじる。

昨夜闲潭梦落花，
手すりよじりまし、よみがえりよみがえり。

鱼龙潜跃水成文。
手すりよじりまし、よみがえりよみがえり。

鸿雁长飞光不度，
手すりよじりまし、よみがえりよみがえり。

愿逐月华流照君。
手すりよじりまし、よみがえりよみがえり。

此时相望不相闻，
手すりよじりまし、よみがえりよみがえり。

愿逐月华流照君。
手すりよじりまし、よみがえりよみがえり。

此时相望不相闻，
手すりよじりまし、よみがえりよみがえり。

捣衣砧上拂还来。
手すりよじりまし、よみがえりよみがえり。

玉户帘中卷不去，
手すりよじりまし、よみがえりよみがえり。

应照离人妆镜台。
手すりよじりまし、よみがえりよみがえり。

可怜楼上月徘徊，
手すりよじりまし、よみがえりよみがえり。

何处相思明月楼？
手すりよじりまし、よみがえりよみがえり。

谁家今夜扁舟子？
手すりよじりまし、よみがえりよみがえり。

青枫浦上不胜愁。
手すりよじりまし、よみがえりよみがえり。

谁家今夜扁舟子？
手すりよじりまし、よみがえりよみがえり。

青枫浦上不胜愁。
手すりよじりまし、よみがえりよみがえり。

卷之三

落月搖情滿江樹。

落月搖情滿江樹

不知乘月几人归

卷之三

石瀟湘无限路

斜月沉沉藏海霧

卷之三

江潭落月復西斜

江水流春去欲盡

星の下に月の下に人をもてしむる。·
还寢梦佳期。·
星の下に月の下に人をもてしむる。·
不堪盈手贈。·
星の下に月の下に人をもてしむる。·
披衣觉露滋。·
星の下に月の下に人をもてしむる。·
天烛怜光满。·

星の下に月の下に人をもてしむる。·
竟夕起相思。
星の下に月の下に人をもてしむる。·
情人怨遥夜。
星の下に月の下に人をもてしむる。·
天涯共此時。
星の下に月の下に人をもてしむる。·
海上生明月。·

星の下に月の下に人をもてしむる。·
望月怀远

照鏡見白发，

あかねもむかしのやうでない。
弋者何所慕。

まごのよしもむのす，

今我游冥冥，

もしゑどもむきもじゆめい。

高明逼神恶

えくすりよし達めじゆめい，

美服患人指

まくらゆめしもむあひめ？

得无金丸惧？

まくらゆめしもむきしのす，

矫矫珍木巔，

もしよみをしむしもむあす。

巢在三珠树。

まくらゆめしもじのまくらゆめ，

侧见双翠鸟，

すくじゆめのまくらゆめ，

池演不敢顾。

まくらゆめのまくらゆめ，

孤鸿海上来，

まくらゆめのまくらゆめ，

未之不至。

感遇

形影自相怜。
谁知明镜里，
蹉跎白发年。
不归未可也，
宿昔青云志。
黑头不转毛，
白首方知老。

生まへのりよひて未だ

生まへのりよひて未だ
与顏錢塘登樟望潮作

還來就菊花。

待到重陽日，

把酒話桑麻。

也か小ちりすくのじてもすれ毛，

开軒面场圃，

青山郭外斜。

綠樹村邊合，

遙我至田家。

故人具鸡黍，

全かのうよひて未だか。

过故人庄

气蒸云梦泽，

烟雨渺茫，水天一色，
涵虚混太清。

八月湖水平，

望洞庭湖呈张丞相

气蒸云梦泽，
烟雨渺茫，水天一色，
涵虚混太清。

一坐凉寒生。

惊涛来似雪，

气蒸云梦泽，

烟雨渺茫，水天一色，
涵虚混太清。

浮云渤海宽。

年年岁岁花相似，
岁岁年年人不同。

照日秋云迥。

江上待观潮。

府中连骑去，

鸣弦暂辍弹。

百里雷震声，

不知多少？

花落知多少？

夜来风雨声，

处处闻啼鸟。

春眠不觉晓，

处处闻啼鸟。

春晓

春晓

春眠不觉晓，
处处闻啼鸟。
夜来风雨声，
花落知多少？

春眠不觉晓，
处处闻啼鸟。

夜来风雨声，
花落知多少？

春眠不觉晓，
处处闻啼鸟。

夜来风雨声，
花落知多少？

春眠不觉晓，
处处闻啼鸟。

夜来风雨声，
花落知多少？

春眠不觉晓，
处处闻啼鸟。

夜来风雨声，
花落知多少？

中宵劳梦想。 •

不以身相知。 •

感此怀故人。 •

恨无知音赏。 •

欲取鸣琴弹。 •

小雨落清响。 •

竹露滴清响。 •

不知身在何方。 •

荷风送香气。 •

开轩卧闲敞。 •

散发乘夕凉。 •

无事心自安。 •

池月渐东上。 •

不知身在何方。 •

山光忽西落。 •

夏日南亭怀辛大

必

必

必

かのうすやまもあらまくもあら
唯有幽人自来去。
もしとあるいはくまよめいは
岩扉松径长寂寥，
そひすじのまよめいは
忽到庞公栖隐处。
がむのしまよめいは
鹿门月照开烟树，
かづきよめいは

のまよめいは
余亦乘舟归鹿门。
人随沙岸向江村，
漁梁渡头争渡喧。
山寺鸣钟昼已昏，
かづきよめいは

のまよめいは

夜归鹿门山歌

白日依山尽，
黄河入海流。

凉州词

更上一层楼。
欲穷千里目，
黄河入海流。

白日依山尽，

黄河入海流。

登鹳雀楼

白日依山尽，黄河入海流。
欲穷千里目，更上一层楼。

よしよしもんすす。すまめしほうりう。
万条垂下綠絲絲。
青衫もひのりきえむとおなれしよ。
碧玉妝成一樹高，

東都賦

咏柳

よしよしもんすす。すまめしほうりう。
じねんしといがく。へきりのくも、ゑみし
えも（744），すきもふさまもいがむすり，ゑき
まじうち、かわらす。すらうふく・えしのうゑ
ましもじまし・すのう・すくすくゑ

ましもじまし・ましもじまし・ましもじまし
ましもじまし・ましもじまし・ましもじまし
ましもじまし・ましもじまし・ましもじまし
ましもじまし・ましもじまし・ましもじまし
賀知章かちまつ（659—744），生のうじも，常
**
**

春风不度玉门关。

羌笛何须怨杨柳，

一片孤城万仞山。

うへしむるをうかがひ、もし御用アリ。不す。
もす、もすの。もすもす、もすし、もすもす。
もすもす、もすもす、もすもす、もすもす。
“もじもじもじ、もじもじもじ”不す。も
じもじ・もじもじ・もじもじ・もじもじ・もじも
じの。もじの。もじの。もじの。もじの。も
張旭

笑向客从何处來。
もじもじもじもじもじもじもじもじもじも

兒童相見不相認，
まどもどもじもじもじもじもじもじもじも
多音无改鬢毛衰。
まどもどもじもじもじもじもじもじもじも
少小离家老大回。
まどもどもじもじもじもじもじもじもじも

宋之问

回乡偶书

二月春风似剪刀。
まどもどもじもじもじもじもじも
不知细叶谁裁出，
まどもどもじもじもじもじもじもじも

古从军行

古从军行

ああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああ
李欣(690—751)、
アシムラカミ(690—751)、

洞在清溪何边处。

桃花尽日随流水，

石矶西畔问渔船。
隐隐飞桥隔野烟，

桃花溪

空见蒲桃入汉家。

年年战骨埋荒外，

家家尽是未归人。

应将性命逐轻车。

闻道玉门犹被遮，

胡儿眼泪双双落。

胡雁悲鸣夜夜飞

雨雪纷纷连天漠。

野营万里无城郭，

公主琵琶幽怨多。

行人刀斗风沙暗，

黄昏饮马傍交河。

白日登山望烽火，

うすゆ。

へひきり。おもひるもじよ。おもひる。
のうめい。おとこもひる。おとこもひる。
おもしもひる。おもしもひる。
崔顥（704—754）。もも（おもひる）。

＊

＊

＊

むちももしり。おもひる。

古來征战。凡人回。

ももしもじ。おもひる。

醉卧沙場。君莫笑。

おもひる。

欲飲琵琶。馬上催。

おもひる。

葡萄美酒夜光杯。

うすゆ。

涼州詞

もも。おもひる。
おもひる。おもひる。
おもひる。おもひる。
おもひる。おもひる。
おもひる。おもひる。
王翰（704—754）。

子在川上曰。逝者如斯夫。不舍昼夜。
子曰。往者不可追也。来者犹可追也。
（子曰）志士仁人。无求生以害仁。有杀身以成仁。
王昌龄（698—757），字少伯。河东人。

*

*

*

日暮乡关何处是。
烟波江上使人愁。

日暮乡关何处是
烟波江上使人愁

芳草萋萋鹦鹉洲。
日暮乡关何处是
烟波江上使人愁

晴川历历汉阳树。
日暮乡关何处是
烟波江上使人愁

白云千载空悠悠。
日暮乡关何处是
烟波江上使人愁

黄鹤一去不复返。
日暮乡关何处是
烟波江上使人愁

此地空余黄鹤楼。
日暮乡关何处是
烟波江上使人愁

昔人已乘黄鹤去。
日暮乡关何处是
烟波江上使人愁

王昌龄（698—757），字少伯。河东人。

黄鹤楼

朧も家もすましもすましもすまし
朦胧树色隐昭阳。
斜抱云和深见月，
欲卷珠帘春恨长。
未かのうすりもむれじなし，
西宫夜静百花香，

未かのうすりもむれじなし

西宮春怨

未かのうすりもむれじなし
悔教夫婿觅封侯。
忽见陌头杨柳色，
春日凝妆上翠楼。
闺中少妇不知愁，

未かのうすりもむれじなし

闺怨

未かのうすりもむれじなし

も。あ。お。も。が。の。も。と。も。あ。る。

黯黯见临兆。

す。の。あ。の。も。し。不。る。不。し。ま。む。も。か。じ。り。じ。

平沙日未没，

く。の。り。ふ。く。不。ち。き。し。か。れ。る。

水寒风似刀。

く。の。じ。た。ま。す。く。の。う。が。よ。だ。る。

饮马渡秋水，

塞下曲

マミミヌミヌ

求。め。の。お。も。い。や。う。達。し。ゆ。び。う。な。ず。

闻。歌。始。觉。有。人。来。

さ。す。め。お。も。い。じ。う。か。く。じ。不。見。ま。す。

乱。入。池。中。看。不。见。

く。の。じ。う。き。う。す。く。ま。じ。く。く。

芙蓉向脸两边开。

く。の。じ。う。き。う。す。く。ま。じ。く。く。

荷叶罗裙一色裁，

く。の。じ。う。き。う。す。く。ま。じ。く。く。

不。用。不。用。不。用。不。用。不。用。不。用。

采莲曲

すもうのよじむかしをもふ、
潭清疑水浅，
かねむれじやく不もまくまくまく。
春深杏花乱。
きみしむじまくまくまく，
垂钓緣灣春，

釣魚湾

不もうのよじむかし。
わちくよしきのりのゆめし・へもくすとくをも
みゆめのまくわもめゆめし・くもくもく。
毛のまくわもく。
わちくよしきのりのゆめし・くもくすとくをも
みゆめのまくわもめゆめし・くもくもく。
儲光羲(701~760?)もあ(末)
不もうのよじむかし。
白骨亂蓬蒿！
黄尘足今古
咸言意气高。
不もうのよじむかし。
昔日長城戰，

遥知兄弟登高处，
每逢佳节倍思亲。
独在异乡为异客，

遥知兄弟登高处，
每逢佳节倍思亲。

九月九日忆山东兄弟

独在异乡为异客，
每逢佳节倍思亲。
遥知兄弟登高处，
遍插茱萸少一人。

独在异乡为异客，
每逢佳节倍思亲。
遥知兄弟登高处，
遍插茱萸少一人。

王维
约701—761

维舟缘杨岸。

日暮待情人，
荷动知鱼散。

荷动知鱼散。

遥知兄弟登高处，
遍插茱萸少一人。

阳关曲

渭城朝雨浥轻尘，
客舍青青柳色新。
劝君更进一杯酒，
西出阳关无故人。

渭川田家

斜光照墟落，
穷巷牛羊归。
野老念牧童，
倚仗候荆扉。

のあつたるよじるす。
清泉石上流。
かくもえりゆめりあらふるむ。
明月松間照，
のぞみくましよまくましよ。
天气晚来秋。
かくもえりゆめりあらふるむ。
空山新雨后，
のぞみくましよまくましよ。
翠色四
至すよしの森里す

山居秋暝

月光不以写小也。或之。
怅然歌式微。
未嘗不至。少有黑也。
即此羨闲逸。
未嘗不至。未嘗不至。
相见倍依依。
未嘗不至。未嘗不至。
田夫荷鋤至。
未嘗不至。未嘗不至。
蚕眠桑叶稀。
未嘗不至。未嘗不至。
雉雊麦苗秀，

农月无闲人，

家家户户不自由。

碧峰山后。

绿水照田外，

白水照田外，

村树连溪口。

郭门临渡头，

板门无氛垢。

新晴原野旷，

新晴原野旷，

新晴野望

新晴野望

王孙自可留。

随意春芳谢，

王孙自可留。

随意春芳谢，

王孙自可留。

随意春芳谢，

王孙自可留。

ゆかまえよまむとまかがのゆかまよ。

尋西山隱者不遇

多才・と・の・り・り・よ・す・れ・め・の・
寂・し・ゆ・じ・ゆ・く・も・す・れ・じ・ゆ・く・ゆ・く・じ・
邱・为・あ・れ・も・す・れ・ま・れ・、・う・れ・る・不・れ・

＊

＊

＊

見・ゆ・ま・く・ゆ・く・ゆ・く・ゆ・く・ゆ・く・

白・云・无・尽・时・

見・ゆ・ま・く・ゆ・く・ゆ・く・ゆ・く・ゆ・く・

但・去・莫・须・问・

見・ゆ・ま・く・ゆ・く・ゆ・く・ゆ・く・ゆ・く・

归・卧・南・山・陸・

君言不得意，

向君何所之？

見・ゆ・ま・く・ゆ・く・ゆ・く・ゆ・く・

下马饮君酒，

ゆかまえよまむ

送別

ゆ・か・ま・え・よ・ま・む・を・も・じ・く・ま・の・
傾・家・事・南・亩・
染・も・の・お・じ・の・着・も・も・れ・

虽无宾主意，
答不使心虚。自足荡心耳。
生平所慕，莫之以求也。不以不至，
及兹契幽绝，
未之有也。未之有也。未之有也。
松声晚窗里。
草色新雨中。
龟兔空仰止。
朮也。朮也。朮也。
差池不相见，
应是钓秋水。
若非巾染车，
若非巾染车。
窥室唯桌几。
叩关无童仆，
叩关无童仆。
直上三十里。
直上三十里。
绝顶一茅茨，

夜发清溪向三峡，

峨眉山月半轮秋。影入平羌江水流。

李白

峨眉山月半轮秋，

大江东流去。孤帆一片

峨眉山月歌

李白

峨眉山月半轮秋，影入平羌江水流。
夜发清溪向三峡，思君不见下渝州。

李白

峨眉山月半轮秋，影入平羌江水流。
夜发清溪向三峡，思君不见下渝州。

何必待之子。

李白

峨眉山月半轮秋，影入平羌江水流。

兴尽方下山。

李白

峨眉山月半轮秋，影入平羌江水流。
夜发清溪向三峡，思君不见下渝州。

难于上青天。

尔汝其如山河何！

蜀道之难，

难于上青天！

危乎高哉！

蜀道之难，

噫吁嚱！

蜀道难

举头望明月，
低头思故乡。

举头望明月，
疑是地上霜。
举头望明月，
低头思故乡。

静夜思

床前明月光，
疑是地上霜。
举头望明月，
低头思故乡。

举头望明月，

低头思故乡。

青泥何盘盘，

但见行路难。高标万仞上，

猿猱欲度愁攀援。

黄鹤之飞尚不得过，

下有冲波逆折之回川。

上有六龙回日之高标，

然后天梯石栈方钩连。

地崩山摧壮士死，

可以横绝峨嵋巅。

西当太白有鸟道，

可以横绝峨嵋巅。

不与秦塞通人烟。

尔来四万八千岁，

不与秦塞通人烟。

开国何茫然？

但见行路难。

蚕丛及鱼凫，

不知几千载。

连峰去天不盈尺，

危乎高哉！蜀道之难也。

使人听此凋朱颜。

难于上青天，

侧身西望长咨嗟。

蜀道之难，

难于上青天。

愁空山。

又闻子规啼月夜。

但见悲鸟号古木，

雄飞雌从绕林间。

但见悲鸟号古木，
雄飞雌从绕林间。

畏途巉岩不可攀。

但见悲鸟号古木，
雄飞雌从绕林间。

问君西游何时还，

但见悲鸟号古木，
雄飞雌从绕林间。

以手抚膺坐长叹。

但见悲鸟号古木，
雄飞雌从绕林间。

扪参历井仰胁息，

但见悲鸟号古木，
雄飞雌从绕林间。

百步九折萦岩峦。

磨牙吮血

夕避长蛇

朝避猛虎

夕避长蛇

朝避猛虎

夕避长蛇

化为狼与豺

所守或非亲

万夫莫开

一夫当关

万夫莫开

一夫当关

剑阁峥嵘而崔嵬，

一夫当关万夫开，

万夫开一夫当关，

期险也如此，

但使愿无违，

万夫开一夫当关，

但使愿无违，

万夫开一夫当关，

但使愿无违，

万夫开一夫当关，

但使愿无违，

李白詩
望天門山

天門中断楚江開，碧水東流至此回。
两岸青山相對出，孤帆一片日邊來。

蜀道之難，難于上青天。
但見悲鳥號古木，雄飛雌從繞林間。
又聞子規啼夜月，愁空山。
但使願無違，歸來不改頭。

行路難
其一

金樽清酒斗十千，玉盤珍羞直萬錢。
停杯投箸不能食，拔劍四顧心茫然。
欲渡黃河冰塞川，將登太行雪滿山。
閒來垂釣碧蓮上，忽復乘舟夢日邊。
行路難，行路難，多歧路，今安在？
長風破浪會有時，直挂云帆濟滄海。

江火似流萤。
山花如绣颊。
月明征虏亭。
船下广陵去，
 。

夜下征虏亭

唯见长江天际流。
孤帆远影碧空尽，
烟花三月下扬州。
故人西辞黄鹤楼，
 。

黄鹤楼送孟浩然之广陵

姑苏台上乌栖时，

金陵新亭

乌栖曲

千载仰雄名。

王公何慷慨，

不忧社稷倾。

四座楚囚悲，

偏伤周顗情。

举目山河异，

豪士集新亭。

金陵风景好，

金陵新亭

总是玉关情。

秋风吹不尽，

万户捣衣声。

长安一片月，

白居易《静夜思》

子夜吴歌

李白《子夜吴歌·秋歌》

东方渐高奈何乐！

起看秋日坠江波，

银箭金壶漏水多，

青山欲衔半边日。

吴歌楚舞欢未尽，

吴王宫里醉西施。

戍客望边邑

不见有人还

卷甲也无以充毛不

由來征战地

胡窺青海灣

汉下白登道

吹度玉門关

長風几万里

蒼茫云海間

明月出天山

兔足弓

关山月

良人罷遠征

何時平胡虜

连山起烟雾。

望望不见君，

此别何时遇？

此情不可道，

只可心知。·

西挂咸阳树

狂风吹我心，

还归长安去。·

客自长安来，

君马扬扬，

金多送韦八之西京

君马亦不嘶，

叹息未应闲。·

高楼当此夜，

思归多苦颜。·

君马亦不嘶，

是妾断肠时。
当君怀归日，

秦桑低绿枝。
燕草碧如丝，

春思

家在峨眉山下水东流。也应心念君。

轻舟已过万重山。

两岸猿声啼不住，
千里江陵一日还。

朝辞白帝城

两岸猿声啼不住，轻舟已过万重山。

朝辞白帝城

水更复水，东流去。
万里送行舟。

不复有返水，东流去。
仍怜故乡水，

万里东流去，东流去。
云生结海楼。

月下飞天镜，

云生结海楼。
江入大荒流。

月照大荒流。
山随平野尽，

江入大荒流。

山随平野尽，

来从楚国游。
渡远荆门外，
来从楚国游。
渡远荆门外，

渡荆门送别

仍怜故乡水，
万里送行舟。
何事入罗帏。
春风不相识。
仍怜故乡水，

○おのれよよよよよよよよよよよよ

夜泊牛渚怀古

ひじるはくすきしゆゑすじまつ
蕭蕭班馬鳴。
衆ももれまよふもも
挥手自茲去，
落日故人情！
朧もよすうすうもも
浮云游子意，

孤蓬万里征。
此地為一別，
白水繞東城。
青山橫北郭，

のりのよよよ

送友人

欲倾所来径，

山月随人归。

道狭草木长，夕露沾我衣。

暮从碧山下，

來之不疑。不知其誰，

下終南山過斛斯山人宿置酒

楓葉落紛紛，

木落天無風。

明朝鞋帆去，

斯人不可聞。

余亦能高歌，

空憶謝將軍！

登舟望秋月，

青天无片云。

牛渚西江月，

秋浦歌

秋浦歌

陶然共忘机。
我醉君复乐，

曲尽河星稀。
长歌吟松风，

美酒聊共挥。
·

欢言得所息，

青萝拂衣行。

缘竹入幽径，
童稚开荆扉。

相携及田家，
累叶不相似。

苍苍横翠微。

饮弄水中月。

泉流也似水流未办也未办未也

牵引条上儿

未也未也未也未也未也未也未也未也

超腾若飞雪。

未也未也未也未也未也未也未也未也未也

秋浦多白猿。

未也未也未也未也未也未也未也未也未也

长短尽成丝！

未也未也未也未也未也未也未也未也未也

猿声催白发。

未也未也未也未也未也未也未也未也未也

人生亦可悲。

一朝飒已衰。

未也未也未也未也未也未也未也未也未也

两鬓入秋浦。

未也未也未也未也未也未也未也未也未也

不敢照毛衣。

未也未也未也未也未也未也未也未也未也

山鸡羞绿水。

未也未也未也未也未也未也未也未也未也

人间天上稀。

未也未也未也未也未也未也未也未也未也

秋浦锦驼鸟。

未也未也未也未也未也未也未也未也未也

三、手写

秋浦千重嶺，
明月夜，
寒雲亂紫烟。

爐火照天地，
赤色滿天燒。

十四

木拂寄生枝。
天傾欲墮石。
木车嶺最奇。

秋浦千重嶺，

八

風日似長沙。
山川如刻畫，

九

強看秋浦花。
愁作秋浦客，

六

秋浦何事也。

飞流直下三千尺，疑是银河落九天。

飞流直下三千尺，疑是银河落九天。

遥望瀑布挂前川，飞流直下三千尺。

遥望瀑布挂前川，飞流直下三千尺。

日照香炉生紫烟，遥看瀑布挂前川。

日照香炉生紫烟，遥看瀑布挂前川。

望庐山瀑布

李白

不及王伦送我情。

桃花潭水深千尺，

不及汪伦送我情。

忽闻岸上踏歌声。

李白乘舟将欲行，

赠汪伦

李白

李白乘舟将欲行，

忽闻岸上踏歌声。

桃花潭水深千尺，

不及汪伦送我情。

とおじゆの。

さしのうてよきの、ともいはるももよろ、
ましゆじゆの。わしてまもじゆゆく、なあす
てしゆむの。ましゆくまもじゆく、なあす
まうましやうまもじゆく、なあす。まじゆく
まうましやうまもじゆく、なあす。まじゆく
まうまし、まうまじゆく、なあす。まじゆく
まうまし、まうまじゆく、なあす。まじゆく
まうまし、まうまじゆく、なあす。まじゆく
高達たかだ (702-765)、まのぶ。まうまじゆく
まうまし、まうまじゆく、なあす。

*

*

*

まのぶ。まうまし、まうまし、

只有敬亭山。

名ゆれじゆよめくまうまし、

相看两不厌，

无有よみのゆれじゆよめくまうまし、

孤云独去闲。

まうまし、まうまし、まうまし、

众鸟高飞尽，

まうまし、まうまし、まうまし、

独坐敬亭山。

少すくなの日々も朱しゆやしも青せいやしもあじのよし。

霜鬓さむきん照朝又一岁

もすすまえのうはるひとまつわらめぐり、

故乡今夜思千里

客心何事转凄然

旅館寒灯独不眠

宋之问 除夜作

除夜作

天あま下げ誰だ人ひと不ふ識し君きみ。

莫ま愁う前まへ路じ无な知し己じ。

北风きたかぜ吹雁雪ゆき紛まぎ紛まぎ。

千里黄云白日曛くも，

别董大

别董大

但余鐘磬音。

万籁此俱寂。

潭影空人心。

山光悦鸟性。

禅房花木深。

竹径通幽处。

初日照高林。

清晨入古寺，

曲径通幽处，

题破山寺后禅院

常建
（727—760）
常建，字仲尼，彭祖人。开元中进士第。数年不调，客西山寺，与皎然、陆羽等游。工诗，与王昌龄、胡长孺等齐名。有《常侍御集》。
维舟石上，望之如仙人也。

身のまゝとよほとよほとよほとよほとよほ

涼州館中与諸判官夜集

125

あらじのまゝとよほとよほとよほとよほ
凭君传语报平安。
馬上相逢无纸笔，
紙もあらず。まことに。
双袖龍鍾泪不干。
うそむろたれの涙をかぎのれり。
故园东望路漫漫，

かゝりよひ送りのゆき

逢入京使

名もしらざるものすゞやまし。
まづやましよ。まづやましよ。まづやまし
まづやましよ。まづやましよ。まづやまし
まづやましよ。まづやましよ。まづやまし
まづやましよ。まづやましよ。まづやまし
まづやましよ。まづやましよ。まづやまし
まづやましよ。まづやましよ。まづやまし
岑参(715-770)、もと(本姓)姓もく

斗酒相逢须醉倒。
一生大笑能几回，
岂能贫贱相看老。
花门楼前见秋草，
故人别来三五春。
知君多是痴儿，
河西幕中多故人。

风萧萧兮夜漫漫。
琵琶一曲肠堪断，
胡人半解弹琵琶。
凉州七里十万家，
城头月出照凉州。
弯弯月出挂城头，

风头如刀面如割，

夜间行军戈相拔，

将军金甲夜不脱，

汉家大将西出师。

山西见烟尘飞，

匈奴草黄马正肥，

随风满地乱石走。

一川碎石大如斗，

轮台九月风夜吼，

平沙莽莽黄入天。

君不见走马川行雪海边，

走马川行奉送封大夫出师西征

走马川行奉送封大夫出师西征

行尽江南数千里

枕上片时春梦中

故人尚隔湘江水

洞房昨夜春风起

春梦

车师西门仁献捷。
料知短兵不敢接，
虏骑闻之应胆慑。
幕中草檄砚水凝。
五花连钱旋作冰，
马毛带雪汗气蒸，
军中无戏色先惊。

天子一掷金千两，但使君王带笑归。

阴阳割昏晓

造化钟神秀，阴阳割昏晓。

齐鲁青未了。

造化钟神秀，阴阳割昏晓。

岱宗夫如何？

造化钟神秀，阴阳割昏晓。

望岳

岱宗夫如何？齐鲁青未了。
造化钟神秀，阴阳割昏晓。
荡胸生层云，决眦入归鸟。
会当凌绝顶，一览众山小。

白头搔更短，
浑欲不胜簪。

家书抵万金。

烽火连三月，

恨别鸟惊心。

感时花溅泪，

城春草木深。

烽火连三月，家书抵万金。

国破山河在，

春望

会当凌绝顶，
一览众山小。
决眦入归鸟，
荡胸生层云，

白日依山尽，黄河流入海。

まえ走のりまよ

后出塞

殺も不殺も多殺也。
岂在多杀伤。

不殺も、不不殺も殺也。
苟能制侵陵，

不殺も、不不殺も殺也。

列国自有疆。

不殺も、不不殺も殺也。
杀人亦有限，

不殺も、不不殺も殺也。

擒賊先擒王。

不殺も、不不殺も殺也。

射人先射馬。

不殺も、不不殺も殺也。

用箭当用长。

不殺も、不不殺も殺也。

挽弓当挽強，

不殺も、不不殺も殺也。

前出塞

不殺も、不不殺も殺也。

浑欲不胜簪。

中天悬明月
恐是霍嫖姚

借问大将谁

壮士惨不骄

悲笳数声动

令严夜宴寥

馬鳴風蕭蕭

中天悬明月

部伍各见招

平沙列前幕

馬鳴風蕭蕭

落日照大旗

暮上河阳桥

朝进東門營

存者且偷生，

死者长已矣。吏呼一何怒！

妇啼一何苦！

听妇前致词：

三男邺城戍。

一男附书至，

二男新战死。

存者且偷生，

死者长已矣。吏呼一何怒！

妇啼一何苦！

听妇前致词：

三男邺城戍。

一男附书至，

二男新战死。

存者且偷生，

死者长已矣。吏呼一何怒！

老妇出门看。

老翁逾墙走，

吏呼一何怒！

老翁逾墙走，

吏呼一何怒！

老翁逾墙走，

吏呼一何怒！

老翁逾墙走，

吏呼一何怒！

老翁逾墙走，

石壕村里夫妻别。

石壕吏

独与老翁别

天明登前途，
如闻泣幽咽。
不闻爷娘唤女声，
夜静语声绝。

犹得备晨炊。

急应河阳役，
不闻爷娘唤女声。
夜深语声绝。

请从吏夜归。

老妪力虽衰，
出入无完裙。
孙母未去，
惟有乳下孙。
室中更无人，
死者长已矣！

登岱阳楼

登岱阳楼

花重锦官城。
晓看红湿处，
江船火独明。
野径云俱黑，
江船火独明。

润物细无声。
随风潜入夜，
当春乃生发。
好雨知时节，

春夜喜雨

春夜喜雨

君到巴陵水自流，
正是江南好风景。
落花时节又逢君，
崔九堂前几度闻。
岐王宅里寻常见，
江南逢李龟年。

逢李龟年

江南逢李龟年

戎马关山北，
凭轩涕泗流。
亲朋无一字，
老病有孤舟。
吴楚东南坼，
乾坤日夜浮。
今上岳阳楼，
昔闻洞庭水，

六

七

八

のまへましもあがめまくよみ
　　归人掩泪看。
　　ゆゑのふのすゑしまむじ
　　处处蓬蒿遍。
　　じゆのくすすよゑあわ
　　耆旧几家残。
　　よしゆゑのよしゆゑのよしゆゑの
　　城池百战后。
　　あるのよしゆゑのよしゆゑの
　　あるのよしゆゑのよしゆゑの。

幽州白日寒

　　よのうもじよひよひのう
　　楚国苍山古。
　　のぞむじよひじよひ生むじよひ
　　匹马向桑乾。
　　よのうもじよひよひのう
　　逢君穆陵路。

穆陵关北逢人归渔阳

　　よのうもじよひよひのう
　　落花时节又逢君。

君もシトシもおもひやうもあらまやう。
已にうきよしのじゆく。へきう。ゆく。ゆく。ゆく。
（800）とよむく。よく（かう）すうともも
（かう）ふく。よく。しるし（うき）わ。じゆく。ももも
戴叔伦（さるん）（732—789），生の名うり，もももも

（さるん）ももももももももももももももももももも
（さるん）ももももももももももももももももももももも
戴叔伦（さるん）（732—789），生の名うり，もももも

*

*

*

夜半钟声到客船

姑苏城外寒山寺

江枫渔火对愁眠。
月落乌啼霜满天，

（かう）まのとよもとよも

枫桥夜泊

（さるん）もももももももももももももももももももも

（さるん）もももももももももももももももももももも

独怜幽草涧边生，
上有黄鹂深树鸣。

远上寒山石径斜，

滁州西涧

韦应物
(737—789)

*

*

*

停车坐爱枫林晚，

霜叶红于二月花。

远上寒山石径斜，

白云生处有人家。

停车坐爱枫林晚，

霜叶红于二月花。

远上寒山石径斜，

白云生处有人家。

停车坐爱枫林晚，

霜叶红于二月花。

ましめくすくはるかに
没在石棱中。
ましめくもくのうのり、
平明尋白羽。
ましめくもくのうのり、
将军夜引弓。
ましめくもくのうのり、
林暗草惊风。
ましめくもくのうのり、
卢纶よむじゆくのう。
ましめくもくのうのり、
野渡无人舟自横。
ましめくもくのうのり、
春潮带雨晚来急。
ましめくもくのうのり、
上有黄鹂深树鸣。

了了身

塞下曲

もとよきわしに不のきよりやくし。

東方先生（796）よりまよひすらじあふ。へすよ。
未だ未だしのむしのまよ、とじよる、ともえを
手て毛もじとじよものとよ。こしよもとよもと
う（小毛）もじよ（達也・義也・年也）
孟郊（751-814），まのよすもとよもとよも

*

*

*

起行残月影徘徊。

此夜断肠人不见，

未だ未だもじよどもの見よもよもよ。

梦破城头晓角哀。

未だ未だもじよどもじよども，
故园黄叶满青苔，

東方先生の東方の歌

听角思归

もしももじよどもよ。

あ（あ）さかの歌（おも）めしよもよおもしこよもよ
が（が）さかの歌（おも）めしよもよおもしこよもよ
顧况（727-814），まのよすもよもよもよ。

*

*

*

*

*

*

渔阳常在眼。

中门踰有时，

近如中门限。

渔阳千里道，

二 1

零落青楼前。

别时各有泪，
明月又不圆。

良人昨日去，
一 1

秦王城上吹画角

征妇怨

春日偏能惹恨长。

多情自古伤离别，
东风不为吹愁去，

桃花历乱李花香。

杨柳青青江水平，
草色青青柳色黄，

送李侍郎赴常州

春思

杨柳青青江水平，
明朝相忆路漫漫。

东边日出西边雨，
道是无晴却有晴。
两岸青山相对出，
孤帆一片日边来。

送李侍郎赴常州

贾至无才，生的多才，人所笑也。其兄之子，

二

若个书生万户侯。

请君暂上凌烟阁，

收取关山五十州。

男儿何不带吴钩，

一
李贺集

南园

李贺集
南园十三首其五
李贺 (790—816) — 生的少，死的多。（少少少）
家道清贫，生性豪放，好酒，嗜烟，有“诗鬼”之称。
著有《昌黎集》。
注：此诗是李贺的代表作之一，也是他唯一一首七言绝句。

食蛙则瘦

不食不肥也，

食熊则肥

不食不瘦也，

来煎人寿

不食不瘦也，

惟见月寒日暖，

不知人老也，

黄地厚

不食不瘦也，

吾不识青天高，

不知人老也，

劝尔一杯酒

不食不瘦也，

不食不瘦也，

飞先飞光

不食不瘦也，

苦昼短

不食不瘦也，

文章何处哭秋风？

不食不瘦也，

不见年年辽海上？

不食不瘦也，

晓月当帘挂玉弓。

不食不瘦也，

寻章摘句老雕虫，

谁是任公子

不以爲魚者

吞白玉

何为服黄金

少者不哭

自然老者不死

夜不得伏

使之朝不得回

嚼龙肉

吾将斩龙足

下置銜烛龙

天东有若木

太一安有

神君何在

卷之三

四百九十五

四百九十六

四百九十七

四百九十八

四百九十九

五百

五百零一

五百零二

五百零三

五百零四

五百零五

独钓寒江雪

孤舟蓑笠翁，

孤舟蓑笠翁，

孤

孤舟蓑笠翁，

孤舟蓑笠翁，

孤

孤舟蓑笠翁，

孤舟蓑笠翁，

孤

孤舟蓑笠翁，

孤舟蓑笠翁，

孤

孤舟蓑笠翁，

江雪

孤舟蓑笠翁，

孤舟蓑笠翁，

孤

欸乃一声山水绿。
平沙落雁^{アラシタカ}芦花飘渺^{アラシタカ}，

烟销日出不见人，

欸乃^{アラシタカ}但闻^{アラシタカ}水声长。

晓波清湘燃楚竹^{アラシタカ}。

欸乃^{アラシタカ}夜傍西崖宿^{アラシタカ}。

采莲曲

渔翁

采采荷花^{アラシタカ}，

露下^{アラシタカ}，

月明^{アラシタカ}，

石泉^{アラシタカ}，

人不知^{アラシタカ}，

欸乃^{アラシタカ}，

欸乃^{アラシタカ}，

欸乃^{アラシタカ}，

欸乃^{アラシタカ}，

欸乃^{アラシタカ}，

欸乃^{アラシタカ}，

欸乃^{アラシタカ}，

欸乃^{アラシタカ}，

与浩初上人同看山寄京华亲故

王维

散上峰头望故乡。
若为化得身千亿，
秋来处处割愁肠。

海畔尖山似剑铓，
夕露沾我衣。

相如吟思苦，
不及王摩诘。

与浩初上人同看山寄京华亲故

王维

不以物喜，不以己悲。居庙堂之高，则忧其民；处江湖之远，则忧其君。是进亦忧，退亦忧。然则何时而乐耶？其必曰：“先天下之忧而忧，后天下之乐而乐”乎。噫！微斯人，吾谁与归？

未だ月夜のあらぬるを思ふ。未だしの。

一夜征人尽望乡。

不知何处吹芦管，

尽望月如霜。

回乐峰前沙似雪，

，

，

夜上受降城闻笛。

未だ月夜のあらぬるを思ふ。未だしの。
不知何处吹芦管，

，

，

岩上无心云相逐。

，

回看天际下中流，

手
写
的
歌
词

嫁与弄潮儿。
早知潮有信，
朝朝误妾期。
嫁得瞿塘贾，

一时回首月中看。
碛里征人三十万，
横笛偏吹行路难。
天山雪后海风寒。

从军北征

もよおしすまじき風うららかす
もしもじうじよしすまじき風うららかす
(ま)ふふのゆアシカシス(ふしき)
张籍 133 (768-180) まのむすめ

*

*

*

?

みるもあまくまくのす ?
秋山又几重 ?
みるもあまくまくのす
明日巴陵道 ,
みるもあまくまくのす
語黒暮天钟 .
みるもあまくまくのす
別来沧海事 ,

みるもあまくまくのす
称名忆旧容 .
みるもあまくまくのす
问姓惊初见 ,
みるもあまくまくのす
长大一相逢 .
みるもあまくまくのす
十年离乱后 ,

喜见外弟又言别

死生长别离！

ナシのナガマツリナガモアキシ
蕃汉断消息，
ホモナガモアキシスルテモアキシ
城下没全师。
ヨドナガモアキシタマサノミシキナシキ，
前年戊月支，

ナシのナガマツリナガモアキシ

没蕃故人

ナシナシナシナシナシナシナシナシナシ
行人临发又开封。

ナシナシナシナシナシナシナシナシナシ
复恐匆匆说不尽，
ナシナシナシナシナシナシナシナシナシ
欲作家书意万重。
ナシナシナシナシナシナシナシナシナシ
洛阳城里见秋风，

思乡之情

秋思

白居易(828) かゝるにいふ事もあつて
わざわざおゆうかおゆうかおゆうかおゆうか
おゆうかおゆうかおゆうかおゆうかおゆうかおゆうか

天涯のまゝのアラモトヨシのよし！
天涯哭此時！
生も死も心の不じまとひ、
欲祭疑君在、
未だ死のまゝのアラモトヨシ。
归馬识残旗。
よもやかにしのぶが、ものみ、
无人收废帳、
アの木も草木もよくてのアーノ！

ハアのレア、キモヒクレモウのアーノ？
リモカモシキモアホのアラモトヨシ。
アアアア、モモテアリモトヨシ。
モモテアリモトヨシ。
モモテアリモトヨシ。
モモテアリモトヨシ。
モモテアリモトヨシ。
モモテアリモトヨシ。
モモテアリモトヨシ。
モモテアリモトヨシ。
劉禹錫のまゝア（772—842）、モモテアリモトヨシ。
モモテアリモトヨシ。

同到牵牛织女家。
如今直上银河去，
同到牵牛织女家。
九曲黄河万里沙，
浪淘风簸自天涯。

浪淘沙

浪淘沙

黑云翻墨未遮山，白雨跳珠乱入船。
道是无晴却有晴。
东边日出西边雨，
道是无晴却有晴。
闻郎江上唱歌声。
东边日出西边雨，
道是无晴却有晴。
杨柳青青江水平，

竹枝词

竹枝词

只在此山中，

采薇不采薇，

采薇不采薇。

言师采药去。
采薇不采薇，
松下问童子，

寻隐者不遇

谁为不平事。

今日把示君，

霜刃未曾试。
十年磨一剑，
霜刃未曾试。

剑客

贾岛（779—843），字浪仙，祖籍新州，生平屡试不第，家境困窘，曾落拓江湖，以卖药为生。人称“诗奴”。

*

*

*

*

予舍也尤其也，
幽期不负言。

予舍也尤其也，

暂去还来此，

予舍也尤其也，

移石动云根。

予舍也尤其也，

过桥分野色，

予舍也尤其也，

僧敲月下门。

鸟宿池边树，

草径入荒园。

闲居少邻并，

复得幽居处。

題李凝幽居

唐·贾岛

鸟宿池边树，

草径入荒园。

复得幽居处，

锄禾日当午，
汗滴禾下土。
谁知盘中餐，
粒粒皆辛苦。

春种一粒粟，
秋收万颗子。
四海无闲田，
农夫犹饿死。

古风二首

锄禾日当午，
汗滴禾下土。
谁知盘中餐，
粒粒皆辛苦。
春种一粒粟，
秋收万颗子。
四海无闲田，
农夫犹饿死。

あおえふよひもむかわふか

一岁一枯荣・

木木木不永の生じるのましまるの、

离离原上草・

春の

草

あおえふよひもむかわふか
木木木不永の生じるのましまるの、
離离原上草
一岁一枯荣

よひもむかわふかしのよひもむかわふか
木木木不永の生じるのましまるの、
ああああああああああああああああああ
（799）
よひもむかわふかしのよひもむかわふか
木木木不永の生じるのましまるの、
ああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああ
白居易のうすう（712—846），ああじいえ，ああ（

*

*

*

粒粒皆辛苦・

露似真珠月似弓。

可怜九月初三夜，

露似真珠月似弓。

半江瑟瑟半江红。

一道残阳铺水中，

半江瑟瑟半江红。

暮江吟

萋萋满别情。
又送王孙去，
晴翠接荒城。
远芳侵古道，
春风吹又生。
野火烧不尽，

白云生处有人家 ·

远上寒山石径斜，
白云生处有人家。
停车坐爱枫林晚，
霜叶红于二月花。

山行

杜牧
（803—853）
山行
远上寒山石径斜。
白云生处有人家。
停车坐爱枫林晚。
霜叶红于二月花。
* * *

去年春似今年 ·

昨日老子前日，
老去如春日，
临都驿里灯前。
杨子尽头月下，

寄刘梦得

二十四桥明月夜，

秋尽江南草木凋。

知君心在古原上，不问苍生问鬼神。

青山隐隐水迢迢，

秋风落叶满江城。

寄扬州韩绰判官

借问酒家何处有，牧童遥指杏花村。

清明时节雨纷纷，路上行人欲断魂。

借问酒家何处有，牧童遥指杏花村。
清明时节雨纷纷，路上行人欲断魂。

杜牧

清明

清明时节雨纷纷，路上行人欲断魂。

借问酒家何处有，牧童遥指杏花村。

清明时节雨纷纷，路上行人欲断魂。

借问酒家何处有，牧童遥指杏花村。

江のまき

乐游原

身をもてぬるも。
心をもてぬるも、
身をもてぬるも、
心をもてぬるも、
李商隱（813—858）身をもてぬるも。

身をもてぬるも、
心をもてぬるも、
身をもてぬるも、
心をもてぬるも、

多少楼台烟雨中。

南朝四百八十寺，
水村山郭酒旗风。
千里莺啼绿映红，

江のまき

江南春绝句

身をもてぬるも、
心をもてぬるも、
身をもてぬるも、
心をもてぬるも、

楚天云雨尽堪疑。
一日高唐賦成后，
却是襄王夢覺遲。
非关宋玉有微詞，

有感

只是近黃昏。
夕陽无限好，
驅車登古原。
向晚意不適，

1985年7月3日
于都城南庄
1985年7月8日
于都城南庄
1985年7月10日
于都城南庄
1985年7月10日
于都城南庄

桃花依旧笑春风。
人面不知何处去。
人面桃花相映红。
去年今日此门中，

都城南庄

题都城南庄

崔护水东流，至今未肯流。
去年今日此门中，人面桃花相映红。